使えるコードを増やそう(1) ~ダイアトニックコード編~

【ダイアトニックコードってなんぞや？】

主にダイアトニックスケール（1 オクターブの中に全音 5 つと半音 2 つという間隔を持つ音階）から生成されるコードのセット。基になったスケールとの相性が良い。生成されたコードは響き方によって以下のように機能が割り当てられている。

トニック(T)	安定した響き。番組では青信号・地面と表現してきた特性
サブドミナント(SD)	少し緊張感のある響き。黄色信号・すべり台の階段や踊り場。
ドミナント(D)	緊張感のある響き。赤信号・すべり台のスロープ。

【メジャー・スケールとナチュラル・マイナー・スケール】

全	全	半	全	全	全	半	
C	D	E	F	G	A	B	C
ド	レ	ミ	ファ	ソ	ラ	シ	ド

全	半	全	全	半	全	全	
C	D	E♭	F	G	A♭	B♭	C
ド	レ	ミ♭	ファ	ソ	ラ♭	シ♭	ド

・特に主音から順に「全・全・半・全・全・全・半」の間隔の物はメジャー・スケール、「全・半・全・全・半・全・全」はナチュラル・マイナー・スケールと呼ばれる。
上の例だと「C メジャー・スケール」「C ナチュラル・マイナー・スケール」

・主音の位置によって 7 つのスケール（チャーチ・モード）ができる。←機会があれば…
（その内の 2 つはメジャー・スケールとナチュラル・マイナー・スケールと同じもの）
7 つのスケールは全てダイアトニックスケールである。

・C メジャーキー（ハ長調）では「C メジャー・スケール」
C マイナーキー（ハ短調）では「C ナチュラル・マイナー・スケール」が主に使われる。

・「C メジャー・スケール」と「A ナチュラル・マイナー・スケール」
「E♭メジャー・スケール」と「C ナチュラル・マイナー・スケール」は同じ音が登場
⇒ 平行調の関係にあるキー（調）は同じ単音を使うことになる。
と同時に生成されるダイアトニックコードも同じである（ただし機能は違う）。

【マイナー・スケールはあと二つあります】

全	半	全	全	半	全半	半	
C	D	E♭	F	G	A♭	B	C
ド	レ	ミ♭	ファ	ソ	ラ♭	シ	ド

・上記のようなものを「ハーモニック・マイナー・スケール」と呼ぶ。
・ナチュラル・マイナー・スケールの 7 番目の音を半音上げている。
・ポピュラー音楽において歌のメロディに用いられることは稀。

全	半	全	全	全	全	半	
C	D	E♭	F	G	A	B	C
ド	レ	ミ♭	ファ	ソ	ラ	シ	ド

・上記のようなものを「メロディック・マイナー・スケール」と呼ぶ。
・ナチュラル・マイナー・スケールの 6・7 番目の音を半音上げている。
・上昇していくメロディに使われる。
（下降していくメロディに対してはナチュラル・マイナー・スケール）

・この 2 つのスケールから出来たコードについてもダイアトニックコードと呼ぶ。
（「ハーモニック・マイナー・スケール」はダイアトニックスケールじゃないけどね）
⇒マイナー・スケールから生成されるダイアトニックコードは 3 パターン有る

・ナチュラル・マイナー・スケールによってメロディが作られていても、「ハーモニック・マイナー・スケール」や「メロディック・マイナー・スケール」から生成されたダイアトニックコードを使ってもよい。

【ちょっと復習】
ポピュラー音楽では B メロを中心に平行調への転調がよくある。
でも転調として認識するよりも、まとめて覚えたら楽じゃない？

例えば「C メジャー・キー」と「A マイナー・キー」の曲のコード付けに関しては
「C メジャー・スケース」「A ナチュラル・マイナー・スケール」
「A ハーモニック・マイナー・スケール」「A メロディック・マイナー・スケール」の
4 つのスケールから生成されたダイアトニックコードを用いる！

【ダイアトニックコード表】

	Ⅰ M7	Ⅱ m7	Ⅲ m7	Ⅳ M7	Ⅴ 7	Ⅵ m7	Ⅶm7(♭5)	
C	CM7	Dm7	Em7	FM7	G7	Am7	Bm7(♭5)	Am
D♭	D♭M7	E♭m7	Fm7	G♭M7	A♭7	B♭m7	Cm7(♭5)	B♭m
D	DM7	Em7	F#m7	GM7	A7	Bm7	C#m7(♭5)	Bm
E♭	E♭M7	Fm7	Gm7	A♭M7	B♭7	Cm7	Dm7(♭5)	Cm
E	EM7	F#m7	G#m7	AM7	B7	C#m7	D#m7(♭5)	C#m
F	FM7	Gm7	Am7	B♭M7	C7	Dm7	Em7(♭5)	Dm
F#	F#M7	G#m7	A#m7	BM7	C#7	D#m7	Fm7(♭5)	D#m
G	GM7	Am7	Bm7	CM7	D7	Em7	F#m7(♭5)	Em
A♭	A♭M7	B♭m7	Cm7	D♭M7	E♭7	Fm7	Gm7(♭5)	Fm
A	AM7	Bm7	C#m7	DM7	E7	F#m7	G#m7(♭5)	F#m
B♭	B♭M7	Cm7	Dm7	E♭M7	F7	Gm7	Am7(♭5)	Gm
B	BM7	C#m7	D#m7	EM7	F#7	G#m7	A#m7(♭5)	G#m
	♭Ⅲ M7	Ⅳ m7	Ⅴ m7	♭Ⅵ M7	♭Ⅶ 7	Ⅰ m7	Ⅱ m7(♭5)	

《メジャー&ナチュラル・マイナー・スケール由来》

・ギリシャ数字は「ディグリーネーム」といって、移動ドと同じように一般化されたもの。
この表は四和音で書かれているけど、三和音でも機能は同じです。
コードの雰囲気は大きく変わるので、お好きな方をチョイスしてください。
（さて、四和音を三和音に直す方法は分かっているのでしょうか？）

・メジャー・キーの場合は一番左の列で探して、横に見ていきましょう。
「Ⅰ M7」「Ⅳ M7」「Ⅴ 7」は基本となるコードで『スリーコード』と呼ばれます。
残りのコードは『代理コード』として同じ色の『スリーコード』の代わりができます。

・マイナー・キーの場合は一番右の列で探して、横に見ていきましょう。
「Ⅰ m7」「Ⅳ m7」「Ⅴ m7」は基本となるコードで「スリーコード」と呼ばれます。
ただし「Ⅴ m7」はドミナントとしての性質があまり強くありません。
（この後に出てくる「Ⅴ 7」がドミナントの性質を持っています）
残りのコードは『代理コード』として同じ色の『スリーコード』の代わりができます。

	Ⅰ mM7	Ⅱ m7(♭5)	♭Ⅲ M7(♯5)	Ⅳ m7	Ⅴ7	♭Ⅵ M7	Ⅶ dim7
Am	AmM7	Bm7(♭5)	CM7(♯5)	Dm7	E7	FM7	G#dim7
B♭m	B♭mM7	Cm7(♭5)	D♭M7(♯5)	E♭m7	F7	G♭M7	Adim7
Bm	BmM7	C#m7(♭5)	DM7(♯5)	Em7	F#7	GM7	A#dim7
Cm	CmM7	Dm7(♭5)	E♭M7(♯5)	Fm7	G7	A♭M7	Bdim7
C#m	C#mM7	D#m7(♭5)	EM7(♯5)	F#m7	G#7	AM7	Cdim7
Dm	DmM7	Em7(♭5)	FM7(♯5)	Gm7	A7	B♭M7	C#dim7
D#m	D#mM7	Fm7(♭5)	F#M7(♯5)	G#m7	A#7	BM7	Ddim7
Em	EmM7	F#m7(♭5)	GM7(♯5)	Am7	B7	CM7	D#dim7
Fm	FmM7	Gm7(♭5)	A♭M7(♯5)	B♭m7	C7	D♭M7	Edim7
F#m	F#mM7	G#m7(♭5)	AM7(♯5)	Bm7	C#7	DM7	Fdim7
Gm	GmM7	Am7(♭5)	B♭M7(♯5)	Cm7	D7	E♭M7	F#dim7
G#m	G#mM7	A#m7(♭5)	BM7(♯5)	C#m7	D#7	EM7	Gdim7

《ハーモニック・マイナー・スケール由来》

	Ⅰ mM7	Ⅱ m7	♭Ⅲ M7(♯5)	Ⅳ7	Ⅴ7	Ⅵ m7(♭5)	Ⅶ m7(♭5)
Am	AmM7	Bm7	CM7(♯5)	D7	E7	F#m7(♭5)	G#m7(♭5)
B♭m	B♭mM7	Cm7	D♭M7(♯5)	E♭7	F7	Gm7(♭5)	Am7(♭5)
Bm	BmM7	C#m7	DM7(♯5)	E7	F#7	G#m7(♭5)	A#m7(♭5)
Cm	CmM7	Dm7	E♭M7(♯5)	F7	G7	Am7(♭5)	Bm7(♭5)
C#m	C#mM7	D#m7	EM7(♯5)	F#7	G#7	A#m7(♭5)	Cm7(♭5)
Dm	DmM7	Em7	FM7(♯5)	G7	A7	Bm7(♭5)	C#m7(♭5)
D#m	D#mM7	Fm7	F#M7(♯5)	G#7	A#7	Cm7(♭5)	Dm7(♭5)
Em	EmM7	F#m7	GM7(♯5)	A7	B7	C#m7(♭5)	D#m7(♭5)
Fm	FmM7	Gm7	A♭M7(♯5)	B♭7	C7	Dm7(♭5)	Em7(♭5)
F#m	F#mM7	G#m7	AM7(♯5)	B7	C#7	D#m7(♭5)	Fm7(♭5)
Gm	GmM7	Am7	B♭M7(♯5)	C7	D7	Em7(♭5)	F#m7(♭5)
G#m	G#mM7	A#m7	BM7(♯5)	C#7	D#7	Fm7(♭5)	Gm7(♭5)

《メロディック・マイナー・スケール由来》

・現状で押さえて欲しいのは「Ⅰ mM7」「Ⅳ7」「Ⅴ7」の３つ。

【今回押さえて欲しいこと】

Ⅰ M7	Ⅱ m7	Ⅲ m7	Ⅳ M7	Ⅴ 7	Ⅵ m7	Ⅶm7(♭5)
	Ⅱ 7	Ⅲ 7			ⅥmM7	

・メジャー・キーで使われるダイアトニックコードは上記。
・「Ⅲ7」は「Ⅲ7→Ⅵm7」という進行がほとんど。
「ⅥmM7」は平行調に完全転調したときに使えるか、使えないか。
（つまりは平行短調の機能/ルールに従って使うコードです。）
・「Ⅱ7」は、けっこう進行を気にせず使える。好き。
（この子は「属調からの拝借コード」として登場することがある）

Ⅰ m7	Ⅱ m7(♭5)	♭ Ⅲ M7	Ⅳ m7	Ⅴ m7	♭ Ⅵ M7	♭ Ⅶ7
Ⅰ mM7			Ⅳ7	Ⅴ 7		

・マイナー・キーで使われるダイアトニックコードは上記。
・メジャー・キーに比べて、各コードの機能が鈍く自由な進行をしやすい。
（その分、平行長調に転調したときは注意しましょう）
・ドミナントを担うのは「Ⅴ7」。逆に言うとこの子を使わず落ち着いた曲にすることも。

今日の内容でほとんどのメロディに対してはコード付けができると思います。
「Ⅰ M7 で使えるメロディの音」とかやってもいいけど、感覚で出来るからカット！
（楽器のリフになると、もっと膨大になるので本職の人をゲストで呼んでくれ…）